

バイオテクノロジーで何ができる？～品種開発の歴史から最新技術まで～

農林水産技術会議事務局研究企画課イノベーション戦略室

開催日：令和3年11月8日(月)～11月12日(金)＜5日間＞開催

来場者：331人

内容：農林水産物の品種開発について、バイオテクノロジーをはじめとした技術による様々な研究成果をパネルにより紹介しながら、実物や標本なども展示しました。イネなど、みなさんに身近なものから、完全養殖に向けて研究が進むウナギや、今注目されているゲノム編集技術を活用しGABAを高蓄積したトマト、無花粉のスギなど、注目の研究を幅広く紹介しました。



従来の交配育種や突然変異育種をパネルで解説し、開発されたイネの標本や日持ちの良いカーネーション等を展示



DNAマーカー育種及び研究例をパネルで解説し、開発された英がはじけにくく、収穫ロスを低減するダイズの英や種子を展示



ゲノム情報を利用した育種によるウナギの仔魚期間の短縮に向けた実証研究をパネルで解説し、ウナギの仔稚魚の生体を展示



遺伝子組換え技術をパネルで解説し、研究開発が進められている観賞用の青いキクの標本も展示



ゲノム編集技術及び研究例をパネルで解説し、開発されたGABAを高蓄積したトマトの苗や果実、無花粉スギの雄花標本等を展示



従来の品種改良からゲノム編集技術について、分かりやすく解説した動画を大型モニターにより放映